

心痛

にくし、何か風にこそ侍らめ、くすし入るべき心地しはべらすといへば、さりととも胸はいとおそ  
ろしきものをといふ程に、典藥さわたれば、こちいませと呼び給へば、ふとよりたり、ことに胸や  
み給ふあり、物のつみかともかいさぐり、藥などもまいらせ給へとて、やがて預けて立ちぬれば、  
くすしなり、御病もふとやめ奉りて、今宵よりはいかうにあい頼み給へとて、胸がいさぐりて手  
ふるれば、女おどろくしう泣きまどへど、言ひ制すべき人もなし。略下

〔小右記〕長和五年三月六日庚戌明日明後日可行手結之事、仰將曹正方、其節件日に行之、今依日面  
宜也、便不差、兩中將許、雅通依胸病發動、不可參朝、任如今無故障者、

寛仁二年五月廿七日戊子、曉更堀河東油小道西四條大路以南南行一町餘、燒亡未刻許、義光從大  
殿來云、御胸重發給、攝政及家子近習卿相等馳參、殿中不靜、少時頗復尋常、

〔台記〕久安二年十二月三日、今夜亥刻患俄胸、一時而愈、

〔内科秘録〕心痛

心痛ハ、後世ニ至リ、胸膈諸藏急痛スルノ總名ニナリ、脾ノ痛ムヲ脾心痛ト云ヒ、胃ノ痛ムヲ胃心  
痛ト云ヒ、腎ノ痛ムヲ腎心痛ト云フ、茫乎トシテ從フ所ヲ知ラズ、畢竟内景ヲ明辨セズ、外ヨリ臆  
想スルユエ名ノミ多クナリテ、却テ人ヲ眩惑スルノミ、金匱ノ胸痺心痛篇ヲ熟讀玩味シ、且ツ隋  
唐諸家ノ說ヲ參考スルニ、心痛ハ心臟病ニシテ、即チ眞ノ心痛ナリ、胃脘痛ハ胃病ニシテ、即チ胃  
心痛、蓋シ痺疼ノ尤モ甚シキ者ナリ、胸痺ハ胸脇病ニシテ、即チ諸筋諸膜ノ急痛スルナリ、此三證  
ヲ分別シテ療治スルトキハ、大ナル過ナカルベシ、

弦癰

〔増補下學集〕上二弦癰支體

〔病名彙解〕五弦癰俗ニウチカタト云リ、頂肩ノ強急スル也、或ノ曰、拳ヲ以テ肩ヲウツトキハ、コ  
コロヨキ故ニ打肩ト云リ、又其病肩ノ内ニ發スル故内肩ト云リ、世俗ニ肩ノミアルヤウニ思ハ